静岡ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER

10月1日金曜日
昭和51年（1976年）

昭和49年5月1日第三種郵便物認可

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　協会理事長堀田哲爾
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市辻町5丁目1の31
電話(0543)67-1970清水ゴール
編集専用電話66-5282(代)

毎月1回1日発行　1部20円

PEPSI

少年サッカー指導教程 ④

日本サッカー協会公認コーチ　堀田哲爾

ドリブルからフェイント指導へ

フェイントはドリブルと同時に指導することが望ましい。ディフェンスにおけるフェイントはボールを持たない者に指導するが、攻撃の時に使うフェイント相手をぬいたり、相手のうらをかくプレーの時使うが、これは次の練習の行程で指導するとよい。

◎リズムに合わせてドリブルできること

フェイントのポイントはリズムを変えるところにある。だから変えることのできる前にまずリズムに合ったドリブルが完全にできなければいけない。

◎けるまねをしてボールを引くこと

ドリブルをして大きくキックのスタイルからボールの上に足をのせ引きだまをする、またはキックのまねをしたあとその足でそのまま左右にボールを動かす。その他けるまねから立ち足のうしろにボールをまわす。

◎急に止まったり、急に速くボールを運んだりする。

スピードの変化によって相手のリズムをくずすことも大切であるその場合とくに全速力で走ったあと急にボールとボデーを止め得るバランスが必要である

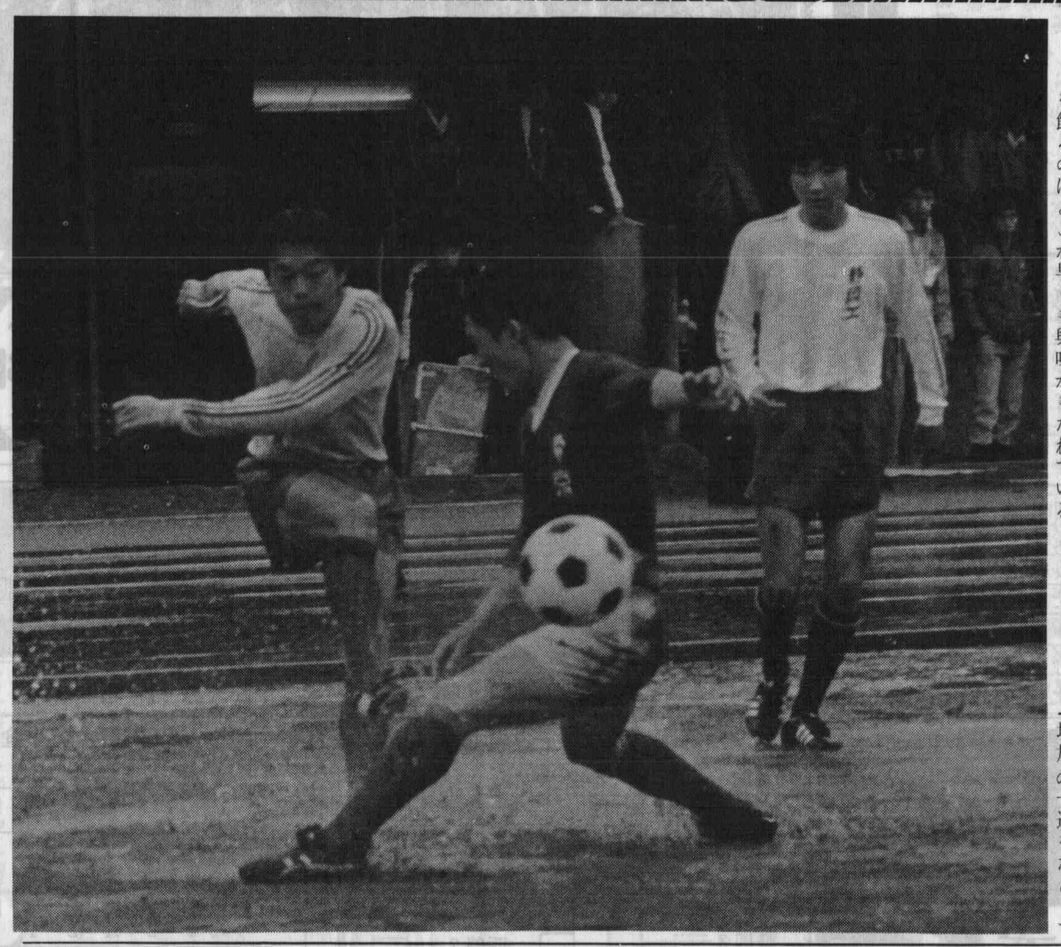
◎二種類をマスターする。

いろいろなフェイントがあるが自分のできるものを二つの種類をもつとゲームが楽しくなる。その場合、ボールを動かすものと、スピードの変化で行うものと一つずつマスターするとよい。

◎使う時と使う場所を考える。

フェイントは相手の方向をあやまらせるもの、タイミングをくるわせるもの、他のプレーをみせかけて別の方法でだますものの三つに分けることができるが、その中で特に使う場所をマスターすべきである。中盤でディデイのフェイントを使ってもそんなに相手は困らないゴール前ですぐシュートするところにディデイのフェイントが生きてくるわけである。

全国高校サッカー選手権県大会



第一次トーナメント突破の十六校決まる！

五十一年度全国高校サッカー選手権県大会の組み合わせ抽選会が行われ、別表の通り決まった。恒例の〝正月高校サッカー〟も、今年度から舞台が大阪から東京に移る〝記念すべき〟大会。新しい高校サッカー界の歴史の一ページを飾るのはどこか早くも興味がもたれている。

県大会の参加校は、昨年度の七十校を大巾に上回って七十六校と史上最高になる。年々増加の一途をたどっているが、一度に六校田方農、沼津北、富宮農、袋井、聖隷学新居）も増えるのは期的な出来事だ。今の高校野球県大会が十二校で行われたの比べて全くそん色な大会にふくれ上がり高校サッカーの人気昇をはっきり物語っている。

今大会の試合形式は第一次トーナメント→A、B、C、D4ブロック各トーナメント1位校十六校によるリーグ戦→ブロックリーグ勝者四校による第二次トーナメント（準決勝決勝）の三段構え。

高校総体予選上位四校、浜名、静岡工、藤枝東、清水東を第1シード校に、そのほか好成績の静岡学園、清水商、藤枝北、浜松湖東を第2シード校、清水工、自動車工、浜松北東海大一を第3シード校、沼津工、吉原工、日大三島、浜松城北工を第4シード校に選んだ後、本抽選を行った東部、中東部、中西部西部の四地区に分け、同一地区校が初戦でぶつからないよう処置された。

リーグ戦出場の十六校決まる

◇第一次トーナメント一位校

Aブロック　清水東
Cブロック　藤枝東
Bブロック　浜名
Dブロック　静岡工

清水東
浜松城北工
藤枝北
日大三島
浜名
吉原工
静岡学園
清水商
自動車工
浜松湖東
浜松北
富士
東海大一

全国高校選手権大会の組み合わせ発表！

県代表の第一回戦は九州代表と

夏の甲子園となら冬の青春のドラマ――昭和五十一年度全国校サッカー選手権大は、日本テレビ、読テレビ等全国の民放テレビ四十一局の後援来年正月、会場を初て関西から東京に移て行われるが、その初み合わせ抽選会と〝ックオフ・パーティ〟が、六日午後四時ら東京の赤坂プリンホテルで開かれた。

最近の高校サッカーの底辺拡大は目ざまく、参加校は毎年飛的に伸びており、今は前年よりも百二校加の二千八百四十一本大会出場校も予選ロックのうち関東の葉・茨城、九州の福岡沖縄がそれぞれ分離独立して、前年より二校増の三十一校となった。

組み合わせ抽選では前年のベスト4をだした埼玉、静岡、愛知、広島をそれぞれシード残りの地域に代わって東京都内の高校女子マネジャー二十七人がクジを引いたが、一回戦で東京と大阪の代表同士が対戦することになった。東京からは今夏の高校総体優勝校の帝京などが予選に出ており、大阪はこれまでの開催地として、多くの優勝校を出している。

各地区の予選は八日から各県で始まっており、今月十五日の北海道代表をトップに十一月二十三日までに全代表が出そろう。

本大会の開会式は来年一月一日の天皇杯全日本選手権大会の決勝戦の前に国立競技場で試合は翌二日から国立競技場のほか、東京の西が丘サッカー場、駒沢競技場、埼玉県の大宮サッカー場を使用して行われる。

過去昭和三十二年静岡国体（天皇杯一位）三十四年東京国体（天皇杯三位）三十八年山口国体（天皇杯六位）の三回だけ、国体の歴史の新しい四回目のトリオ出場が決まったわけである。

少年チームは出場チームも多く、毎年の出場で選抜方式に四十五年よりなってからは六回のうち四回の優勝。昨年度は少年の部だけで天皇杯にも優勝することができた。

この部では過去、鍵本、美和、長池、井田勝沢と高校界の名監督がその大任を果たしたが、今回、勝沢、福本池田の三人でチームの世話をする。

成年は静岡国体に志太クラブ、東京国体には巴川製紙、山口国体へは全静岡、今までこの部は愛知に独占され代表の愛知は常に全国上位進出していただけに期待できる。

教員は新旧の変わり期に来て大物校長、福井半治氏を会長にむかえ、意気あがり決勝では苦戦をのりこえPK戦7対6での幸勝であった。

今国体は奇しくも三種別の監督が清水東出身者であるのもおもしろい。少年の勝沢要氏成年の杉山隆一氏、教員の杉田基之氏、ともに清水東高、福井氏の教え子であるのもちょっとしたビッグニュースである。

選手は次の通り。

第四回清水少年招待試合

全国の最強チームを招いて12月開催！

第四回目をむかえた清水招待サッカー試合は今年十二月二十六日二十七日二十八日の三日間行われる。

全清水六年と五年の地元二チームに対し県内で浜松、藤枝、静岡富士宮、庵原に最近めきめき力をつけてきた焼津の六チーム、県外からは広島、神戸、刈谷、町田、甲府、四日市、浦和、仙台等十二チームを招待の予定。

試合は初日からリーグ戦、ベスト4でトーナメントと、各チーム最低四ゲームのできる組み合わせで行われる。

招待チームとくわしい日程は十一月号で発表。

PEPSI

県国体サッカーチーム全種目の出場決まる！

静岡県国体チームは山口国体以来十三年ぶりに三種目全てに出場が決まった。

国体出場静岡県選抜少年の部メンバー

監督　勝沢　要（清水東）主務　福本　利幸（沼津工）
コーチ　池田　辰男（藤枝北）
選手　15名

位置	選手名	所属校	位置	選手名	所属校
GK	牧田　邦彦	清水東	HB	野田　明義	浜名
FB	久野　裕一	藤枝東	〃	高橋　誠	静岡工
〃	◎石川　則幸	清水東	〃	○吉越　利光	浜名
〃	谷口　幸雄	静岡工	FW	大野　聖吾	藤枝東
〃	八木　智嗣	静岡学	〃	志田　文則	清水東
〃	栗田　栄彦	清水東	〃	安間　和仁	浜名
HB	池谷　太志	藤枝東	〃	有ヶ谷二郎	静岡学
〃	宮本　昭義	静岡学			

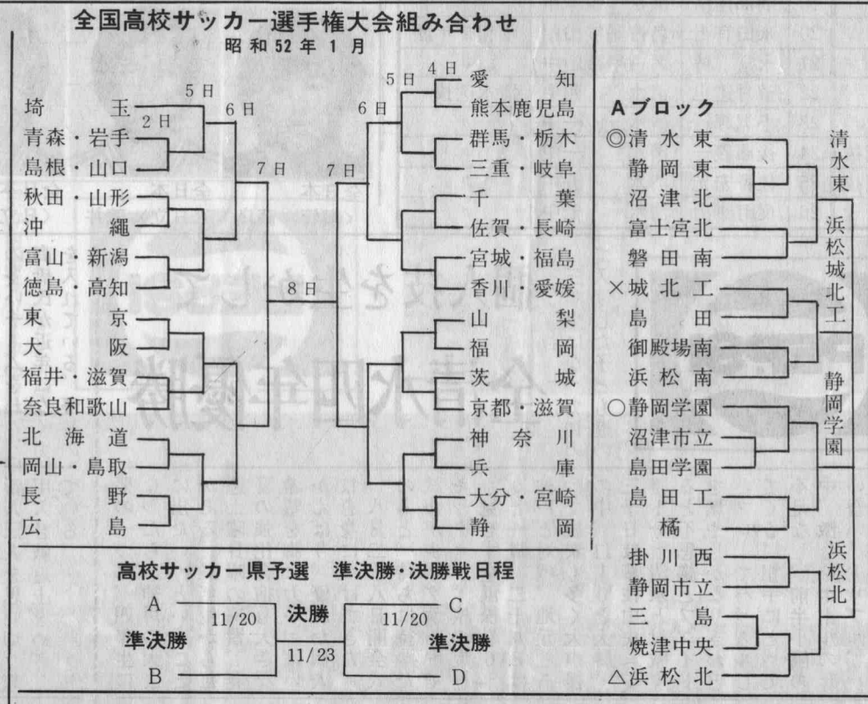
国体出場静岡県選抜成年の部メンバー

役員　杉山　隆一（監督　ヤマハ）
コーチ　菊川　凱夫（志太ク）
主務　村越　広（東海積水）

位置	選手名	所属	位置	選手名	所属
GK	本田　達也	ヤマハ	HB	石川　操	ヤマハ
FB	工藤　篤	ヤマハ	〃	高橋　公平	ヤマハ
〃	福原　正義	ヤマハ	〃	天野　栄	清水ク
〃	多武　一学	浜友会	FW	伏見　義武	ヤマハ
〃	広野　幸宏	浜友会	〃	望月　一仁	清水ク
〃	増田　孝和	志太ク	〃	内藤　勝広	住友ベ
〃	伊藤　博敏	住友ベ	〃	平井　文晶	静ガス
HB	◎市川　三雄	ヤマハ			

全国高校サッカー選手権大会組み合わせ

昭和52年1月

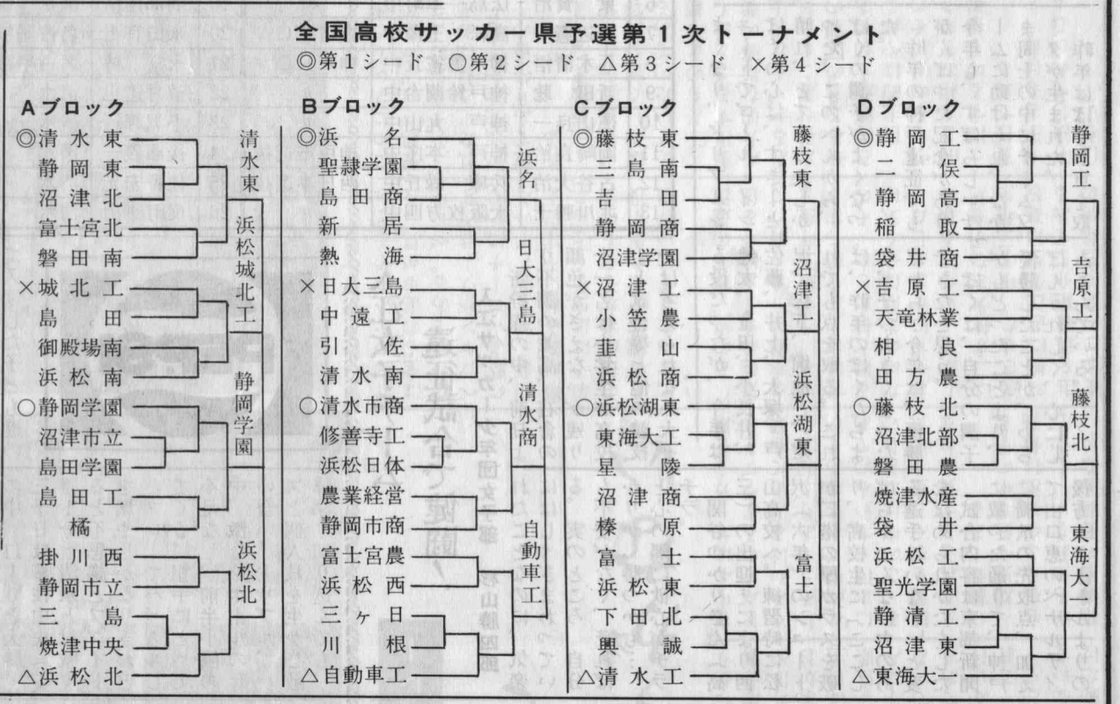


高校サッカー県予選　準決勝・決勝戦日程

A　B　準決勝　11/20
C　D　準決勝　11/20
決勝　11/23

全国高校サッカー県予選第1次トーナメント

◎第1シード　○第2シード　△第3シード　×第4シード



〈辻小グランド〉

9：00　小3年決勝
10：00　小4年決勝
11：00　女子ジュニア決勝
11：50　女子決勝
12：50　小5年決勝

〈一中グランド〉

9：30　高校決勝
10：50　中学決勝
11：50　小6年決勝
12：40　育成会決勝
13：40　地区対抗決勝
14：50　OB東西対抗決勝
16：00　閉会式

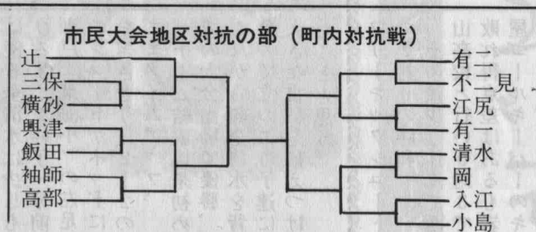
清水市民大会十一部門の決勝戦十月十日開催

会場は辻小と清水一中！

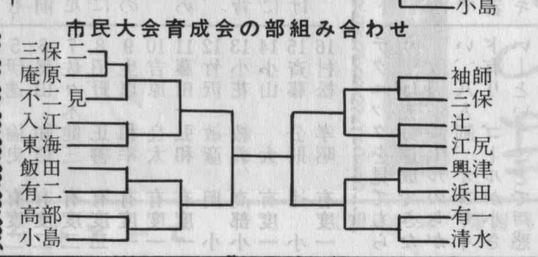
市民大会は今年も体育の日の十月十日、一中と辻小で行われる。特に注目されているのは地区対抗戦と育成会トーナメント。昨年育成会トーナメントは有度一の圧勝に終ったが、今年は各地区練習の結果が出ており、全く予想がつかない。

日程と組み合わせは次の通り。

市民大会地区対抗の部（町内対抗戦）



市民大会育成会の部組み合わせ



編集ノート

東西に、そして地元の大会にも、抜群の強さで優勝を飾り続けている全清水の少年たちは八月から九月にかけて二回もテレビに登場。少年サッカー日本一を文字通りに証明してくれた。六年生全清水の将来に期待する夢は大きい◆全国高校選手権の県予選は第一次トーナメントを終わり、四ブロックが来月七日からリーグ戦に入る。全国大会への出場を目指す各校イレブンの熱戦に高校サッカーのファンは年毎に増加し、注目の決勝戦は、晩秋の二十三日、勤労感謝の日の藤枝市営グランドで行われる。各校イレブンの健闘に期待したい◆九月第二週に続々と起こった大ニュースを百字でまとめるのは無理だが、内閣改造での臨時国会。ミグ25の不時着。大型雨台風17号の襲来による大被害毛沢東死去。大ニュースは話題になるが共通して暗い。月末に発行された週刊誌にはもう〝紅白歌合戦〟今年の落ちる人、はいる人の特集である。やっと訪れてくれたさわやかな秋風は、目まぐるしい日本列島の世相にとまどっている。（二本木）

第一回さわやか杯 県選抜大会 全清水が初優勝！

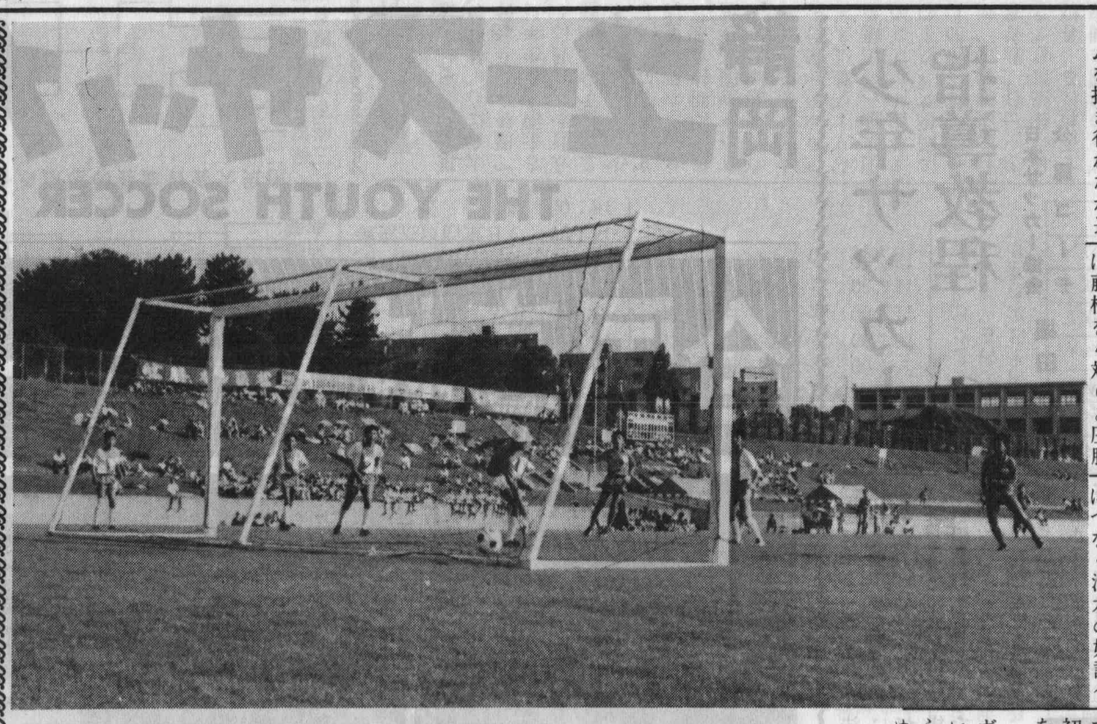
第一回さわやか杯選抜県少年サッカー大会は県下最強チーム八チームを招き行れたが連戦連勝の全清水は一回戦榛原を6対0、準決浜松を7対0、決勝では藤枝を4対0と圧勝した。

決勝はたてパスで一発をねらう藤枝と、横につなぐ清水の好試合が予想されたが、藤枝がバックを強化してスイーパーをおき、トップの人数を少なくし最初から消極的サッカーをこころみた。

前半10分鍋田からのボールを青島が決め続いて同じコース鍋田からのボールを堀田が決めリード。

後半になっても力はおとろえず5分糟屋、13分望月のロングシュートが決まり、全く一方的のゲーム展開となった。

またディフェンスでは浄見がプロ選手顔負けの見事なヘディングクリマーを見せ会場をわかした。なおこの決勝戦はテレビ静岡で一時間にわたり十九日の四時十五分より放映され好評だった。



▲写真は優勝した全清水イレブン

PEPSI

少年サッカーとチームプレー

ほっといてのびるはずがない

過保護、教育ママ、オーバーコーチング、どれを見ても指導過多の現象を示した言葉である。しかもこれらの言葉は常に教育界では悪い指導の見本のようにいわれている。

サッカー界でもチームの指導の指導性が強すぎて子ども達も指導者の私物のような形で育てられているのをみかける。オーバーコーチングとは少しちがうと思うが、全く指導者の話したこと以外はやろうとしない現象がおこり、結果的には自主性も失い一見、一生懸命やっているようにみえてもやらされているのにすぎないのである。

これらの指導がいけないという反面、これと全く反対のごとく、全くの指導をしないで子どもの自主活動だけを中心にサッカーを楽しんでいるクラブをよくみかける。とても楽しそうであり、和気合々の中でボールあそびにふけっているのである。この中には苦しい練習もなく、全くの気まぐれとしか見られない練習である。

幼児や低学年の子どもならこの方法は最高かも知れない。しかし指導者の意図もなく、計画のない中で子どもは全くの進歩が見られないのである。ペレやベッケンパワーは十オの時よいコーチにめぐり合えたと話していた事があるが、十才以上の子には少なくともこの指導者が子どもの伸る可能性を引き出す役にならなくてはいけない。

その点、枚方の近江先生のチームにいる佐々木君はうまく育っている。小学校五年生までではボールを持ちすぎるほど持たした。そのための失敗は全く気にさせずにがまんした。しかし、いつでも彼には二才位大きな子を対決させた。中学三年生の彼に近江先生は高校生を現在紹介してある。彼はこの高校三年生のためにプレーの速さを要求され、パスのタイミングをおぼえさせられた。これはおそらく近江先生が予想した配置であり指導の一つである。

一見教えないイメージのある先生が実はすばらしく育つ内容を教えていたのである。

子どものとり組みを重視することはもちろん大切な指導の要素であるが、それ以上に教えるべきことと気づかせることの区別の解かる指導が大切である。

自主的にやれる子をつくるのも、その自主的とり組みをできるようにするのも指導者の責任である。

子どもはほっといても決してのびるものではない。

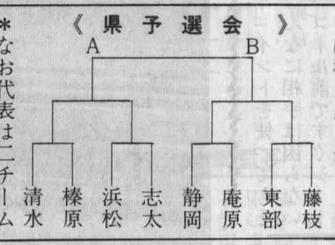
（哲）

第七回東海四県少年サッカー大会県予選

東海の王者を決める小学生少年大会の県予選会は、今年県大会を行う藤枝市で十一月七日に行われるが、その組み合わせが決まった。

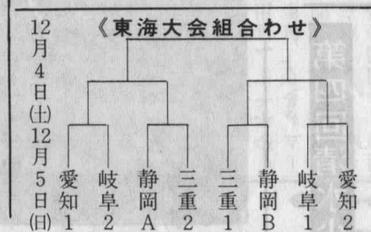
なお東海四県の組み合わせも同時に決まっている。

《県予選会》

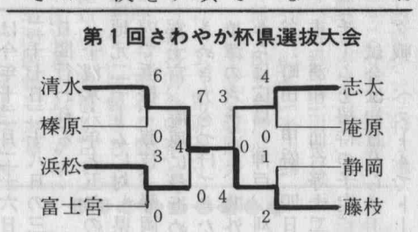


＊なお代表は二チーム

《東海大会組合わせ》



第1回さわやか杯県選抜大会



西日本サッカーフェスティバル 五部門優勝！

西日本一を決める年別大会としての評価高い神戸大会は全清水四年より中三までの六チームが参加、中二チームが五部門に優勝した。

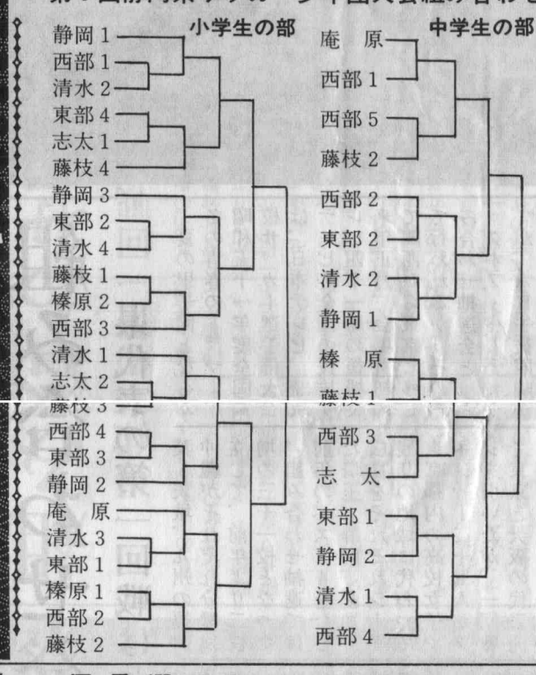
昨年は小四を一つとしたが、中二の敗戦では大変惜しい戦いぶりであった。ほかは相手チームを圧勝した。

なお中一チームは日本中一選抜チーム結成、中国遠征計画OBチームと連合で計画している。

選抜選手は次の通り。

なお十二月に強化合宿を行う。

第9回静岡県サッカー少年団大会組み合わせ



西日本選抜中一優秀選手

西日本OBサッカー連盟

No.	選手氏名	学校	所属	No.	選手氏名	学校	所属
1	竹内哲也	熊本　出水中	熊本S教室	14	村川建一	大阪枚方四中	西日本選抜
2	林　悟	熊本　白川中	〃	15	林　和馬	岐阜　高富中	〃
3	横谷賢徳	熊本　出水中	〃	16	日比英二	岐阜　岐陽中	〃
4	緒方俊郎	熊本　京陵中	〃	17	小笠原源	浜松　南陽中	浜松選抜
5	後藤信三	広島　翠町中	広島大河FC	18	松本守弘	浜松　八幡中	〃
6	東　賢治	広島　翠町中	〃	19	刑部佳浩	浜松　蜆塚中	〃
7	渡辺憲一	高松　玉藻中	香川FC	20	永田官士	名古屋桜山中	昭和少年団
8	八木清悟	神戸雲雀丘中	神戸FC	21	永富　博	名古屋桜山中	〃
9	新田　聡	神戸鈴蘭台中	〃	22	望月達也	清水　四中	清水選抜
10	徳山良一	神戸　丸山中	〃	23	小沢輝行	清水　一中	〃
11	岡崎良治	神戸　本庄中	神戸市選抜	24	後藤義一	清水　一中	〃
12	古谷大治	兵庫　緑丘中	西日本選抜	25	佐野宏光	清水　五中	〃
13	北川勝士	大阪枚方四中	〃	26	反町康治	清水　七中	〃

チームワークで勝ち取った優勝

—神戸遠征—　五年　大榎克巳

昨年、神戸では、いい試合（準優勝）を残しているので、今年もと希望を持って清水を出発した。

しかし、ぼくの心の片すみに、今、少し調子が悪いという気持ちがあった。だから、心のすみがくもっていた。

ぼくは、試合で本調子ではないけれど、みんなに助けてもらい、自分なりにがんばることができた。そのうちぼくの調子も少しずつよくなり、ドリブルシュートでゴール・インぼくの心は、すきーと晴れ、とてもうれしかった。このへんから、ぼくの調子がよくなった。

昨年の神戸遠征でもがんばった記念があり今年も、すばらしいチームに助けられ、なかま同士の中にチームワークが生まれた。

昨年はぼくが点を取る役だったが、今年は健太、金田、小長井、佐藤、井上、大塚、芦沢、松下、堀池と、だれでも点を取る。これは、昨年のぼくたちより、一つ大きくなっただから、今年は、優勝できたと思う。

ぼくは、自分の調子がもどったことより、優勝したことが、いちばんうれしく、心にしみこんでいる。

全清水特別招待で刈谷全中杯に出場！

刈谷サッカー協会主催、全中杯少年サッカー大会に昨年初出場優勝した全清水は、今年は特別招待を受けた。

この大会は東海地区を中心に十月十日に十六チームでトーナメントを行い、その中から三ベスト3を出し十月十一日、全清水を入れ四チームでトーナメントを行う。

今年すでに全国的大会とつま恋大会、四日市大会、伊賀上野大会、神戸大会、さわやか杯と五大大会のチャンピオンとなっている全清水、今後、刈谷大会、東海四県大会、清水招待、藤枝JC招待と四大会が残っているが、全種目制覇も夢でなくなった。

コンディショニングの失敗さえなければいまだやったことのない全チャンピオンとなり得る可能性もある。

常におごることなくいかんなく力を発揮してほしいものである。

ペプシ杯争奪 県少年大会の組合わせ決まる！

今年の大会は第一回国士館大の早川、大阪大会を開催した藤枝商大の平木等、若手ホープがたくさん育っている。行われる。すでに九目をむかえた本大会であるが、今年から小学生チームを24チームとし、大会は一月三十一日、二月十一日、十三日の三日間で行われる。

清水からも今年は四チームが参加、中学も二チームとなっている。特に中学生の部は三年生の参加を期待したい全清水三年の出場も可能であるので参加することもありうる。

特にこの大会がなぜ二月に行われるかも考え、中学生指導者の勇気ある行動に期待したい。組み合わせは次の通り。

三年生。法政の中村した選手はすでに大三年生。

西日本大会に参加したオール清水を見て

清水商高　川口雅良

アウトサイドのトラップ、大きなフェイント、正確なパス等、どの地域の少年団も持ち合せなかった、一番大切なものを全員がよく身につけており、三人位のプレッシャーの中でも平然とコントロールして、突破していく姿は、まさしく小学生中学生ばなれしたプレーであり、オール清水常勝が当然のように思えた。そこで、この企画に参加しての一番の収獲は、指導者達の試合に対する謙虚で前向きのミーティングである。やはりオール清水とはいえ、苦しい場面が数回あった。それはスピードで押され、体力に物を言わせて攻められた時である。そんな時のミーティングでも、スピードを先取りせず、技術に重点を置いた指導方針は微動もせず、苦しくても、それをはね除け、さらに高度な技術を要求しようとするミーティングは、かなり熱の入ったものであった。しかしそれは高校生を指導する我々には大きな課題を提示されたことになる。それは高校ではスピードを要求しない訳にはいかないのだ。高校段階では技術プラススピードが絶対条件である。つまり小学校、中学校で、あれだけのサッカーを身につけた生徒に対して、どのようにしてスピードを要求していくか？　この提示を肌で感じたことである。

バスに揺られて六時間半、すぐに開会式、そして試合、こんなコンディションの悪い中でも常に勝つ、オール清水を、なんとか高校段階まで引き伸ばしたいものだ。

日本リーグ最終戦　日立対鋼管

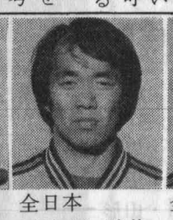
2月6日清水で開催

地元になじみ深い二チームが日本リーグの最終戦を清水市営グランドで行う。

日立は今年、確井、高林の二新人が入り走るサッカーとシュートの多いチームをねらう高橋氏が近年になく力を入れている。優勝の声すらするチームカラーに生まれ変わっている。

一方、日本鋼管も田中氏の指揮で若手がすくすくとのび、センター高橋を中心に藤島の攻守にわたるプレー、川北、池谷、兼田の新人三人を思い切り起用入替戦返上をめざしている。

全日本〈鋼管〉藤島



全日本〈日立〉確井

全日本〈日立〉高林

全日本　新人〈鋼管〉池谷

個人技を生かして 全清水四年優勝

三年生になって初めて入団した子ども達の夢の一つに、四年生になったら「神戸の大会に出たい」ということがある。三年生から毎週土曜日曜の練習、春夏の強化合宿も大きな希望を胸に力いっぱいがんばり、優れた個人技を身につけてきた。

八月二十八日開会式のあと、待ちに待った試合が少年グランドでキックオフ。旅の疲れも見せず全浜松を6—0と一蹴。二十九日は神戸と対戦。地元とあって観衆も多く大声援の中、11—0と大勝。三十日は藤枝中央（1勝1分）清水と対戦すると不思議とファイトを燃やしかなりきわどいプレーでハッスルしてくる。相手にとって不足なし。前半小雨の中、激しいボールの奪い合い。ドリブル、パスと個人技を生かし敵陣深く切り込んでも、藤枝の大きなクリアーでボールは清水陣内へとび込んでくる。パスアンドゴーとキックアンドラッシュのゲーム展開。

前半0—1とリードされたが、後半立ちあがり伊達（有度二）のシュートで同点。その後も相手ゴールを強襲するが得点とならず、逆に敵のロングキックをバックがクリアーミス、フォワードがとび込まれ1—2とリードされる。しかし個人技に優る全清水は少しもひるまず、終了一分前瀬戸（東海小）の左足のシュートがネットに突きささり、2—2のままタイムアップ。

チーム結成以来初めての大会出場で優勝、これからの全清水を背負って立つこの子達に大きな自信を植えつけたことと思う。

二年間ここまで育ててきた各チームの監督ならびに中山、高山、青山先生の意気の合った指導、育成会の陰の力に深く感謝いたします。

（小島）

監督　小島鋼雄
コーチ　中山雅夫
主務　高山　薫
〃　青山秀司

選手
1原田　清　江尻小
2川口　慎也　江尻小
3柏原　潤　三保一
4世登　泰二　東海小
5伊達　倫史　有度二
6奥山　知信　有度二
7佐々木健三　有度二
8沼野　正善　有度二
9生塩　和幸　有度一
10吉原　良太　有度一
11藤田　弘和　有度一
12竹沢　敏彦　岡小
13小花　教義　高部小
14小山　大　有度一
15斉藤　公則　辻小
16村松　孝昭　有度一

入江女子チーム遠征試合で健闘！

入江サッカー少年団女子部　杉山勝四郎

新幹線の中、前日より不調の兼高、石倉の顔色がさえないが残り十一名は小学生が高校生と試合等と他の競技では考えられない大それたことなのに、気楽にはしゃぎまわっている。実のところ、自分も不安がなく、そればかりか〝勝つかも…〟と心の隅に欲心がチラチラ。

関谷ゆかりさん（高三）の出迎えにより西山高校へ。練習時に松沢（六年）のシュートが二階の厚ガラスを破り、高校生に「ここしばらくこんなに力のある選手はいない」と変なほめられかたをした。

試合内容は京都新聞に載った通りで、神戸に橋爪の先取点、加えて山口恵のペナルティ後方一メートルよりのフリーキックシュートで2対0の勝利。

その後少し休んで西山高校と行い0対3で敗れ得点差はあるも岩屋ゴールキーパーのキックはハーフラインを大きく越え度肝を抜いた。また山口恵はハーフラインより五人もドリブルでぬき、ゴール前パスを回わす余裕を見せる等、各所に対等以上のプレーを見せ、見学者に感嘆の声をあげさす。遠征の目的—テクニックを見てもらう—は充分達成できた。

敗因—ルールのちがい、八人制、オフサイド有り、ゴールが小さい—ということで戸惑う。実力の半分以下しかだせぬと選手。では明日もとオフサイドのルールを教えて再度と望むも都合により中止やむなく高校生とキーパー付の1対1シュート戦を行い2対0にて勝。迫力は負るも技術は上と確認する。

対西山高校　女子小学選手

監督　杉山勝四郎
コーチ　畠山泰道

H	本田美登里	6年
F	山口　恵	
B	松沢　清美	
GK	岩屋美穂子	
FW	橋爪　明美	
B	兼高　美奈	
BH	岩崎　光美	
H	木岡　二葉	5年
B	半田　悦子	
FW	石倉　幸美	
FW	金田　美保	
F	山口　裕子	4年
H	山田　千愛	